

# 高校生と保育

## —授業の中より—

三好美那



ちえっくのかえりさん

てぶもぐらさん



びんくもぐらさん

### 表 情 人 形

核家族化の進んでいる中で、最近はこの家庭にも子どもの数が少なくて、きょうだいにも、隣り近所にも恵まれず、幼児に近づこうと思っても容易ではないというのが現状である。

私の受持っている二つのクラスにおいても、家族中に乳幼児がいる者は僅かに三～四人であって、子どもに関する知識は極めて薄く、相当数の者が乳幼児の具体的な事象を忘れてしまっているという状態が普通である。したがって保育園なり幼稚園と関係をもたないと、教科書だけでは全くどうにもならない現状であることを痛感する。それだけに保育の授業への関心度は決して少なくなく、他の科目と同じ程度に熱心な学習意欲や態度が見られて、うれしい限りなのである。二年ほど前に県内の西部地区の高校生を対象とした研究でも将来の自分の生活設計について思考もし、級友とも討論し、レポートにも表現して、なかなか現実的にもはつきりしたライフサイクルを持つていることに私共教師は驚かされた経験をもっている。このような生徒たちの要求に応じて保育の授業をいかに展開していったらよいのか。いろいろ指導案に工夫をこらした結果、教科書の順序を思い切り崩して「子どももってどんなものでしょう」と、保育園へまず見学に行つて子どもの姿を把握させた。生徒たちは、各種各様の観察をしていて、その発表は生き生きとしていて、その中にこんな発見の数々が見られ

た。

- 子どもって非常に元気でじっとしていない
- 子どもって独占欲がすごい
- 子どもってエゴイストである
- 子どもってすごくかわいい
- 子どもって体全部を使ってあそぶ遊びが好きようだ
- 子どもって何にでも真剣になるものである
- 子どもって仲間に入りたいのを押えてまわりで邪魔をしてい  
るものがある

●あんな小さな子どもにも、もうヒロイズムの芽が出ていて驚いた

これらを見て、教師側から子どもの特徴を羅列的に講義するより印象深く確認されたことに、効果があったんだなと深く思った。

生徒たちは次回の訪園を待ち望んでいた。

第二回は、身心の発達を知るためには、生活のすべてである“あそび”を通して学ぶことであると解釈して、幼児のあそびについて学習を重ね、市販の玩具の見学も終わり、子どもの成長に役立つ、あるいはよるこばれるであろう玩具を、グループ研究して製作し、子どもの反応を調べて見た。作品例として、

(1) 積木パズル……初めはおそるおそるであったがパズルの完成に得意になって独占して困ったとか。園長先生に「これはいいおもちゃだ」とほめられ生徒も満足のようであった。

(2) トネルあそび……大きなダンボールをつなぎ合せて幼児の好みそうな絵を側面にべったり書き並べたもので、なかなかの人氣で満員であった。中にはすわって窓から首を出して出てこない子どもがあったりして、交通整理に大わらわというところであった。

(3) 縫いぐるみの大蛇……全長三メートル、直径一五センチの蛇二匹。どのような反響かと胸をおどらせつつ子どもの前に見せたところ。大歓声と共に集まってきた……体にまきつける、つなぎ、プロレスごっこ「四の字がためか」と縄とび、電車ごっこ、かついでワッセワッセと走り回って追いかけて。あそびがにつき発展して、生徒たちも満足のようが見えた。

(4) いじわる輪投げ……台をゆらせて動いている缶を目指しての輪投げであるが、動きがおもしろいのか、楽しんでいる風景が見られた。

(5) 表情人形を使ってお話……ピンクのもぐらさん、でぶもぐらさん、チェックのかえるさんかななるトリオ。スポンジとタオルを使って安全性と感触のよさを考えて、手を入れて表情を作り

ながらお話を聞かせる。夢中になって見入っている子どものかお、かおがあった。園の保母さんも感心して見ていた。

保育園を立去るに当たって子どもたちが垣根によじのぼって手をふりつつ「おねえーさあーん、またきてねえー」の大声が、相当離れるまで聞えてきて、生徒たちは感激して、それぞれの子どもたちの反響を話しながら帰校した。話に夢中になって電柱に衝突してコブを作った生徒もあった。

次回は、絵本についての学習のまとめとして、手作りの絵本作って、どんな絵本を子どもたちは喜ぶだろうか、どんな与え方（よみ方）をしてあげるのがよいか等を研究した。作品中より評判のよかったベスト10をあげると、

(13 ページ写真)

(1) くまさんのおとしもの……二人の子どもが、くまさんの落としたがねを遠い道をいろいろの動物に尋ねながら届けに行き喜ばれたというのであるが、絵巻物ふうになっていて、一枚の長い紙を使ったのが予想外に子どもに受けて、廊下にねころんで何回でもくり返して見てくれた。

(2) 白い馬にのって……お菓子好きのよっちゃんは、白い馬にのっておかしの国へ行ってお菓子に苦しめられた夢を見て、ごはんをたべるいい子になったというお話。

(3) ミミちゃんの日……落ち穴に落ちたミミがうさぎに助けら

れ、仲よしになったが、うさぎの家のごち走は人參ばかりなので食べないミミがうさぎを悲しませ、人參をこんどまでに好きにする約束をするというお話。

(4) あかべえのぼうけん……迷子になったクレヨンがいろいろの冒険をし、苦勞して戻ってくるお話。

(5) 淋しいようせい……長い間孤独であった妖精ミニー（大きな木）がやがて船となった木と共に世界を巡って人々に触れ、船はこわされるが小さな窓となり、そこでミニーは暖かな仕合せを見つけることができた。

(6) うさこのハンカチ……うさぎのうさこは、なくしたハンカチに名前をかいてあったため、手許に戻ってきたというお話。読み終わった時、一人の子どもは自分のハンカチをとり出して見えた。

(7) あいうえおよっちゃんのおつかい……文字を覚えさせるため、絵と文字と対照に描いたもの。

(8) どうぶつうたのえほん……動物の歌ばかり八曲をイラスト入りでかいたもの。

(9) かくれんぼ……すずめ、あひる、ねこのかくれんぼ風景を歌う。

(10) カブのいちにち……幼稚園ぎらいのねずみのカブが、ずる休

みをしたため、ねこにさらわれてこわい目にあう。危い所を助けられ、これからは幼稚園を休まない約束をするという話。

(III) 布の絵本……紙に比べて布の方が手ざわりがよく、立体的なので、喜んで絵本に親しんでくれるのではないかという発想で作られたものであるが、布をえらび、刺繍を入れたり、スパンコールを使ったりして配色に留意した。子どもたちは何度もくり返しを要求し、離れなくて困った。園長さんも保母さんも、高校生では素晴らしいととてもほくたくださって、二人の生徒はうれしうであった。

絵本、おもちゃの製作と、それを用いた保育実習の反省として生徒のアンケートを集約すると、

- 1 授業が楽しみで精いっぱいとりくめた。
- 2 手作りへの自信がついた。
- 3 高い費用をかけなくてもよいものができることを知った。
- 4 市販品を見る時の判断力が高められた。
- 5 創作の大切さを知った。
- 6 子どもの身心の発達が新鮮で明確に把握できた。
- 7 同一のおもちゃを使っていろいろな遊び方があることを発見した。

教師側にとってみれば、

教師と生徒と親密さが増し、ふだん消極的で元氣のない生徒が、実に生き生きした表情で活動していることにびっくりした。また他教科(国語、芸術科目)での学習も総合的に応用されて、知的な好奇心が満足されているようすがよく見えて、効果があったと思う。

今後に必要なことは、健康な子どもへの理解はこの程度に留め、身心障害児の施設における乳幼児はどのようであるかも、近く訪問して見せたいと思っている。婦人雑誌、週刊誌からのかたよった知識が先行している時代なので、高校時代から準備しておくこと、関心を持ってもらいたいことを整理して、母体の生理、誕生、保育技術についても、望ましいあり方、正しい知識を、限られた時間を最も有効に配分して学習をすすめる、幼児期の人間形成の重要性を十分理解させたいと願うと共に「育てる」という意味の社会における重要な意義を、保育を通じてすべてに発展させて行くこと、すなわち、花を育てる、心を育てる、友情を育てる、グループを育てる、会社を育てる、等、真に理解してもらいたいと願っている。

(静岡県立磐田南高等学校)